

鳥羽商船高等専門学校	開講年度	平成26年度 (2014年度)	授業科目	数値解析
------------	------	-----------------	------	------

科目基礎情報				
科目番号	0033	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	海事システム学専攻	対象学年	専1	
開設期	後期	週時間数	後期:2	
教科書/教材	ANSI Cによる数値計算法入門 第2版、堀之内総一著、森北出版			
担当教員	藤井 正光			

到達目標				
1. 各種の数値解析アルゴリズムについて説明できる。 2. 数値解析が生じる誤差の原因、及び、改善法について説明できる。 3. C言語を用いて、数値解析アルゴリズムの記述ができる。				

ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	複数の数値解析のアルゴリズムを挙げ、それらの概要を述べる事が出来る	数値解析のアルゴリズムを複数挙げる事が出来る	数値解析のアルゴリズムを挙げる事が出来ない	
評価項目2	数値解析に生じる誤差の原因を述べ、その改善法について説明できる	数値解析に生じる誤差の原因を説明できる	数値解析に誤差が生じる事を説明できない	
評価項目3	数学的・工学的な問題を解くため、数値解析法を用いたプログラムを設計し、記述する事が出来る	数値解析法を用いたソフトウェアを設計する事が出来る	C言語を用いたプログラムが記述できない	

学科の到達目標項目との関係

教育方法等				
概要	【海事 平成27年 1年・2年 春、生産 平成28年 1年・2年 前期 開講】 科学技術計算のための数値計算法の基礎について解説する。 また、数値計算法を用いて、数学的・工学的な課題を解くことで理解を深める。			
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 各種の数値解析アルゴリズムについて、C言語を用いて記述する課題を課すので期日までに提出すること 数値解析を用いて、数学的及び工学的問題を解く課題を課すので期日までに提出すること 			
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 単にプログラム作成だけをするのではなく、授業内容を復習することによって原理も理解すること 			

授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	講義概要の説明 コンピュータの数値表現とその特徴	コンピュータ内部の数値表現を説明できる 桁落ち、情報落ち、浮動小数点を説明できる
		2週	1変数方程式の解法	2分法、ニュートン法を用いて 1変数方程式を解く事が出来る
		3週	連立1次方程式の解法 I	ガウスの消去法を用いて 連立1次方程式を解くことができる
		4週	連立1次方程式の解法 II	ガウスジョルダン法を用いて 連立1次方程式を解くことができる
		5週	補間法 I	ラグランジュ補間法を用いて、数値補間ができる
		6週	補間法 II	ニュートン補間法を用いて、数値補間ができる
		7週	関数近似 I	最小二乗法を用いて、離散値の関数近似ができる
		8週	中間試験	中間試験
	4thQ	9週	関数近似 II	スプライン関数を用いて、離散値の関数近似ができる
		10週	数値微分	差分公式を用いて、数値微分ができる
		11週	数値積分 I	台形公式を用いて数値積分ができる 刻み幅と計算精度について説明できる
		12週	数値積分 II	シンプソン公式を用いて数値積分ができる
		13週	常微分方程式 I	オイラー法、ホイン法を用いて、 常微分方程式の解を求める事が出来る
		14週	常微分方程式 II	ルンゲクッタ公式を用いて、 常微分方程式の解を求める事が出来る
		15週	定期試験	定期試験
		16週	定期試験の解説と確認	定期試験の解説に基づいて、正しい数値解析プログラムを記述できる

モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0